



No.205 発行元・返還先：(公財) 箕面市国際交流協会

【賛助会員数】個人：279名 法人：22団体 (9月13日現在)

〒562-0032 箕面市小野原西5-2-36 多文化交流センター内

Tel：072-727-6912 Fax：072-727-6920

E-mail：info@mafga.or.jp Web：https://mafga.or.jp



[2024年度テーマ]
半径5メートルの多文化共生
アレウィズムとわたし

2024年度の「めろん」では、「半径5メートルの多文化共生」という年間テーマを設け、協会の中で、あるいは書き手の身近な関係性の中で起こる多文化にまつわる出来事や経験から、読者とともに考えていきたいテーマについて問題提起していく。

私の夫はトルコ南東部出身のアレウィーと呼ばれる人達である。アレウィーとは、ウィキペディアなどで検索すると「イスラム教の一派」と説明されているが、実際はかなり異なる。夫によると、アレウィズムの起源は約1万年くらい前にさかのぼる。古代のアナトリア(=西アジア半島)やギリシアの自然哲学をはじめ、メソポタミアの信仰、アニミズム、ササン朝ペルシアの「マズデック」^{マズデック}、マニ教、ゾロアスター教、仏教・・・、さらに、さまざまな新興の唯一神信仰や思想のいいところを混ぜながらつくられたという。

アレウィズムを一言でいうと、「^{ハク}Hak Yolu(=正しい道、の意)」。人間を^{ハク}Hak(=神)、学問探求への道、愛情の観点からとらえた、「人間中心」の一種の教え(信仰)であり、同時にそれに基づく生活様式をさす。「誰かに何かを押し付けてはいけない」ので、コーランや聖書のような「聖典」はない。口承で伝えられた、常に人間中心主義をとるアレウィズムの教えを受け入れる人たちが、自らのことを「アレウィー」と呼んでいる。

書かれた教えのようなものがない中で、どうやって伝えるのかというと、直接家族や親せきから口頭で伝えられるもの以外では「民謡」がある。我が家は家に夫がいるときは、トルコのラジオや民謡をずっと聴いている(しかも結構な音量で)。それらは400年前の虐殺事件を悼むものであったり、心のまま人を愛して失恋した切なさであったりとさまざまだ。

一般的にアナトリアのアレウィーは、いくつかのイスラームにまつわる故事や用語を使っていたとしても、神に対する理解や信仰の実践方法においては「イスラーム」の教えとはまったく異なっている。アレウィーは、イスラームの五行である「断食、(1日5回の)礼拝、喜捨、巡礼、信仰告白(シャハーダ)」はおこなわない。代わりに、彼ら独特の信仰と礼拝方法を有する。例えば、アレウィズムにおける^{ゼム}CEM(集団)礼拝や、^{セマー}旋舞(セマー)、アレウィー間で認められるきょうだい関係(^{ムサーヒスリキ}Musahiplik)などは、一般的に知られているイスラームの教えには全く見られないものである。Cemeviと呼ばれる集会所に入ると、男性、女性の区別はなく、みな同じ命を持った存在としてみなされる。スンニ派では女性は男性によって「守られるべき弱い存在」であるのに対し、女性はスカーフをかみならず男性と対等、子どもは誰よりも大切にされる。ハラム(禁忌)の概念もなく、豚肉やお酒もOKだ。

「正しい道」を「心のままに生きる」ことをモットーとしているので、本人が「スンニ派のように生きたい」と願えば、そのように暮らすこともできる(実際、都会に行けば行くほど、同化が進んで



(写真) 夫の故郷の風景。

いるようだ)。奔放に生きる人が多く、夫の家族も離婚、再婚を繰り返す人が非常に多い(だから親戚関係が本当にやや

こしい)。子育てに関しても、夫は小さい時から子どもに「いいかい?他人に嘘をついても良いけど、自分の心にだけは絶対に嘘をついてはいけないよ」と事あるごとに諭していた。私はというと、「他人に嘘をついたら、それ相応のしっぺ返しが自分に帰ってくるのでつかない方がいいよ」と後から付け加えているが、こうやって教えていくんだと感心もした。

アレウィーの人口は、トルコにおよそ2千万人いると言われており(全体の約2割程度)、シリアなどの周辺国にも数千人が暮らしている(民族的には、トルコ人やクルド人のほか、ザザ人やアラブ人もいる)。ところがスンニ派及びシーア派の人たちの理解からかなりかけ離れた存在であるため、長年差別や迫害の対象になってきた。このため、自らのアイデンティティをカミングアウトしづらい状況があるし、家族の中でも理解や行動様式の幅が非常に大きい。私の夫はアレウィーであることを自ら話すタイプだが、「実は自分も…でもまわりには話していないからここだけにとどめておいて」という出会いがいくつもあった。

私は1997年から2001年末までの4年間、トルコに留学していたが、なぜか気の合う友達や、1999年におきた「トルコ北西部地震」の被災地では、テント村などで混乱の中から秩序をつくるまとめ役を担う人たちにはアレウィーが多かった。何でも分け合うのが好きで(良いことも面倒くさいことも!)、何かを押し付けること(そして押し付けられること)は大嫌い。それでいて、マイノリティの性ともいうべきか、周りの状況をよくみて調整することが実にうまい人たち。誰か仲間が攻撃されたと感じると、即座に連帯して抗議の意思を示す様子も頼もしい。一緒に過ごしていると、慌ただしいけどなんとも居心地が良いのだ。

いっぽうで、日本でもトルコでも、「夫がトルコ人だと、あなたもイスラム教でしょう?」とよく聞かれるが、そのたびに違うと答えると必ず微妙な空気になる。私の子どもが保育園に通っていたこ

ろ、「トルコ人って悪いことなん？」と聞かれ、びっくりしたこともある。なぜかと聞くと、「おまえの父ちゃん、テロリスト？」と言われたとか。当時はIS(イスラム国)が台頭してきた頃で、テレビでは頻りに暴力的な映像が流れていた。夫は「イスラム原理主義と一緒にされるとは！自分たちはムスリムどころか、ISに迫害されていたヤズディー教徒に近い方なのに！」と腹を立てていたが、この嘆きに共感してくれる人が皆無に等しいのが私たちの日常だ。

このように、アレウィズムは非常にオリジナリティの強い思考様式で、日本ではあまりにも知られていない存在だ(ちなみに北イン

ドからバルカン、ケルトまで、少しずつ似たような人たちはどの地域にも存在するらしい)。トルコ語で書かれたアレウィズムに関する本などを読んでも、イスラム主義の学者がもっともらしいことを書いてはいるけれど、私の知っている実態とはかけ離れていてピンとこない。ある日、義母に「アレウィーは結局、どういう人たち？」と聞いてみたら、「あんたがまさに筋金入り。アレウィー中のアレウィーだよ」と言われた。日本でも(そしてトルコでも)違和感を持つことが多いなか、丸ごと自分を認めてくれる人たちが身近にいることに感謝している。(岩城)



多文化リレーエッセイ

R & R 刺繍体験で広がる視点 (浜内怜子)

(写真) R&Rの2人。左から、浜内さん、ロクサナさん。
提供：タツキー816みのおエフエム

協会の語学講師であり、ボランティアとしても活動歴の長いロクサナ・ロベスさんとメキシコ刺繍サークルを始めて1年半になる。ロクサナさんには故郷メキシコの伝統文化を日本人のたちに紹介したい、とくに刺繍作品は完成品だけでなく現地の職人たちのことも伝えたい、との思いが強くあった。それで、協会で実際に刺繍をしながらメキシコの文化や生活に触れる機会を作ることを思いたち、その協力者として手芸好きの浜内が加わったという次第である。

刺繍サークルは2023年3月に「ひとこま」*での体験イベントとしてスタートし、9月からの月1回の定例開催を経て、2024年4月から6ヵ月単位のコースとなった。サークル名も「ボルダード・デ・テナンゴ」(メキシコ・テナンゴ地方に伝わる刺繍のこと)とし、作品作りが始まった。刺繍糸と図案布もメキシコから直接取り寄せている。図案を描いているのはメキシコ在住のダニエラさん。ロクサナさん所蔵の作品や写真を参考に刺繍していくのだが、何より苦労するのは色の取り合せ。ずいぶん思い切った配色にしたつもりが、何度もロクサナさんから「きれいだけど、メキシコじゃない!」と言われる。10人ほどの参加者がお互いに意見を出し教え合いながら、少しずつ針を進めている。教室や講習ではなく、月に1回皆が刺繍する時間を共有する場所になっている。

「ボルダード・デ・テナンゴ」開始にあたって、ロクサナさんと浜内のグループ「R&R」(Roxana & Reiko)のホームページを公開したところ、「メキシコ刺繍」で検索してヒットした何人かが関心を寄せ、申込みがあった。北大阪急行延伸の効果もあったのか、箕面市外からの参加者が多いことが注目される。思いがけないところから協会の存在を知ってもらう可能性が広がった。また、ダニエラさんはメキシコ先住民の文化を広めるべく、11月に来日予定。ダニエラさんを迎え、話を聞ける機会が持てるよう、企画中だ。

*大阪大学箕面キャンパス3階にて、大学とも連携しながら、学生・若者が地域とつながる居場所として協会が展開するスペース。

【筆者紹介】浜内怜子(はまうち・れいこ)

協会ボランティア活動歴10年。一貫して多言語生活情報誌「みのおポスト」の編集・発行を担当。子どもの頃から、刺繍や編み物が好きで、今も続けている。

(公社)日本バレエ協会会員・AODT会員

唐木幸子バレエスタジオ ~箕面の地で40年の歴史~

*バレエコース：「ロシア国立ペルミバレエ学校日本校」のバレエ教授法取得証明書(Dipolma)や、日本徒手療法師会より「徒手療法師」の資格認定を与えられた姿勢調整師でもある指導者が、丁寧に分かりやすく指導致します。「バレエは芸術」として長く続けられるように、また中高生には学業と両立できるよう配慮しています。3才~80才位の年齢層まで、目的に合わせて気軽に楽しく始められます。

*健康コース：徒手療法師の資格を持ったバレエ指導者(姿勢科学士)が健康維持を目的とした姿勢調整を致します。

〒562-0041 箕面市桜4-1-24 阪急牧落駅西側右斜め前(駅より30M)
072-721-6300/721-2576 <http://www.karaki-sachiko-ballet.com/>



国際交流協会 (MAFGA) からのお知らせ



【申込み先】 ☎: 072-727-6912 FAX: 072-727-6920 Web: mafga.or.jp

イベント 10/10 (木) 13:30-15:00	Café com Livros ブラジルブックカフェ ブラジルに関する本、ポルトガル語の絵本を始めとしたさまざまな書籍を広げて、ゆる〜くつながります。	場 所: 大阪大学箕面キャンパス 3F ビロテイ 参加費: 無料 (申込み不要)
セミナー 10/17 (木) 18:30-20:30	移民を生きる ~ニュージーランドで、そして日本で ニュージーランドのウエリントンに移住して8年を迎える Ohana さんに、現地での生活について、また「移民」として生きる経験について聞く。 ◎ Ohana (NZ 在住) ◎ ニール・トレース (箕面市国際交流員、NZ 出身)	場 所: 市民ギャラリー (チカノバ) 定 員: 20 名 (申込み先着順) 参加費: 1,500 円 (軽食つき) 申込み: QR コードから
セミナー 11/2 (土) 13:30-14:30	外国人市民のための救命救急セミナー ~「いざ!」というときのために~ 火事やけが、急な病気などのとき、自分や大切な人の身を守る方法を学びます。 英語・中国語・ベトナム語・スペイン語・フィリピン語の通訳つき。	場 所: 多文化交流センター 定 員: 20 名 申込み: QR コードから 協 力: 箕面市消防本部 豊川分署
フェスティバル 11/9 (土) 10:00-16:00	ミニ多民族フェスティバル 2024 今年、多文化交流センター内で開催! ワールドマーケット (世界の雑貨・フリマ)、せかいのあそび VIVA! (遊びコーナー)、パフォーマンスなど。	場 所: 多文化交流センター 申込み: 不要 主 催: 多民族フェスティバル実行委員会
受講者募集 随時受付中	国際理解のための語学講座 (2024 年度後期) 10月16日より順次、語学講座が開講します。空きのある講座については、随時入会可能! (定員に達し次第、受付を締め切ります) 日時や受講料など、詳しくは QR コードからご確認ください。	

他団体からののお知らせ

問合せ・申込みはそれぞれの団体へお願いします。

フェスティバル 10/12 (土) 11:00-16:00	アートフェス@箕面船場ひろば ~多様な人々が交わり創造する協奏のまちづくり~ 箕面船場阪大前駅が誕生し、文化芸能・国際交流の拠点として盛り上がりを見せる箕面船場エリアで、アートイベント「アートフェス@箕面船場ひろば」を昨年に続き今年も開催します!	場 所: 箕面船場阪大前駅周辺 参加費: 無料 (申込み不要) 主 催: アートフェス実行委員会
大阪大学 毎月第三木曜日 10/17 (木) 19:00-20:00	マンズリー多文化サロン 中国編 「香港文字紀行」 大阪大学の教員が、諸外国・諸地域の文化や生活などを紹介。 *オンライン併用のハイブリッド開催です。 ◎鈴木慎吾 (大阪大学 人文学研究科 教授)	参加費: 無料 場 所: 大阪大学箕面キャンパス 1F 大講義室 申込み: 10/5 ~ 10/15 に HP、TEL で https://www.sfs.osaka-u.ac.jp/ 主 催: 大阪大学外国語学部 申込み・問合せ: 072-730-5013
人権フォーラム 11/10 (日) 13:00 開場 13:30 開演	映画「アランラプソディ〜海を越えた11人〜」 上映会&感想交流会 毎月12月に開催している、「みのお市民人権フォーラム」のプレ企画として、「在日韓国人」分科会のテーマが共通する、在日コリアンの女性たちを捉えた作品を上映します。	場 所: 多文化交流センター 参加費: 無料 定 員: 60 名 (10/24 までに申込み) ※一時保育 (2歳以上あり) 主 催: みのお市民人権フォーラム実行委員会 申込み・問合せ: 協会 (072-727-6912)

めろん編集部

【ボランティア】井嶋眞佐子、荻野克彦、黒田アリサ、崔聖子、山下三千世、鷺尾則昭
【事務局】宇治野清隆、岩城あすか、河合大輔、坂口ピーター

coupe de Minami スクール coupe de MINAMI 南プロカッティング研究所

町屋で楽しく洋服をつくってみませんか?




ボディに布を直接
のせて服をつくって
みましょう!
(立体裁断)

南正枝 プロフィール (略歴)

昭和42~45年 フランス・パリの洋裁学校にて立体裁断、デザイン等を修得

昭和45~47年 カネボウ Christian Dior アトリエでデザイナー

昭和47年以降 大学および専門学校での講師経験多数

◆リフォームや服のお仕立てもいたします! ◆パターンや立体裁断も教えます。◆詳細はホームページあるいは下記まで直接お電話ください!

●問合せ: 〒562-0012 箕面市白島2-2-30 電話 / FAX 072 (721) 4151
E-mail info@coupe-de-minami.com URL <http://www.coupe-de-minami.com>

こちらは、多文化交流センター(小野原)コムカフェのメニューです

10月
October



comm cafe ランチカレンダー

コム カフェ

《簡易版》

水～土曜 9:30 - 11:30 朝カフェ
11:30 - 14:00 日替わりランチタイム (¥990)
14:00 - 17:00 午後カフェ

日・祝日 9:30 - 10:00 カフェタイム
10:00 - 13:00 世界の朝ごはん (ドリンク付 ¥770)
13:00 - 17:00 カフェタイム



ホームページ



Facebook



Instagram

「未定」となっている箇所については、Facebook 掲載のランチカレンダーでお確かめください!

comm cafe 直通 TEL:072-734-6255 (予約もこちらから!)

月	火	水	木	金	土	日
	1 店休日	2 MAFGA スナック	3 貸切のため、 カフェはお休みです。	4 山口さん 《中国》	5 オクトーバーフェスト in 阪大船場出店のため、 カフェはお休みです。 	6 MAFGA スナック
7 休館日	8 店休日	9 ナースさん 《インド》	10 MAFGA スナック	11 ノックさん 《タイ》	12 協会主催事業のため、 カフェはお休みです。	13 世界の朝ごはん 《ベラルーシ》
14 MAFGA スナック	15 店休日	16 ファルザナさん 《バングラデシュ》 	17 へバさん 《シリア》 	18 MAFGA スナック	19 ルーバさん 《インド》 ラクトベジタリアン	20 MAFGA スナック
21 休館日	22 店休日	23 MAFGA スナック	24 ノックさん 《タイ》	25 洪さん 《コリア》	26 チノさん 《タイ》	27 MAFGA スナック
28 休館日	29 店休日	30 MAFGA スナック	31 へバさん 《シリア》 	ス… スナック & スウィーツの日 イ… カフェで開催するイベント ● 店内メニューもお持ち帰り可能です。 ● メニューやシェフは変わることもあります。 ● ベジタリアン、ハラル、アレルギー-対応については、お気軽におたずねください。		

fairtrade shop & cafe
Espero
能勢
espero nase

フェアトレード雑貨と古民家カフェ
豊能郡能勢町地黄 476
営業時間：金～月 11:00～17:00
<http://espero-osaka.com/>

※ギャラリー・カフェともに月・火曜定休

チカノバ ギャラリー：10:00～21:00
カフェ：11:00～20:30 (日曜は～18:00)
水・木・金の14:00～16:00はカフェをクローズします

協定管理者：(公財)箕面市国際交流協会

「フード」×「アート」×「ハート」をテーマに、箕面船場阪大前駅改札すくにおオープン!

ホームページ Facebook Instagram

北大阪急行線・箕面船場阪大前駅 改札階(地下3階)
(〒562-0035 大阪府箕面市船場東 3-7-35 箕面市立市民ギャラリー)
TEL:072-734-8711 (ギャラリー) / 072-734-8722 (カフェ)
FAX:072-734-8732 Email:chikanova@mafga.or.jp